



香曾我部義則先生の今月のカルテ ⑤0

慢性痛とペインクリニック

■プロフィール こうそがべ・よしのり 昭和54年に岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長に、平成16年から現職。日本麻酔学会専門医。日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生が、痛みの治療について分かりやすく説明してくれるコラム。神経の周囲や神経内に局所麻酔を注入して痛みを取り除く「神経根ブロック」。今回は痛みの少ない新しい「神経根ブロック」「神経根パルス療法」について紹介します。

神経が圧迫されて起こる炎症、痛み、痺れ…

治療には「神経根ブロック」「神経根パルス」が有効

神経が圧迫され炎症を起すと、痛みと痺（しび）れが生じます。神経は、感覚神経をブロックすることで痛みを鎮め、交感神経をブロックすることで血流を改善することが出来ます。また、運動神経をブロックすることで筋肉をほぐす効果が期待できます。

この神経根が、例えば腰椎レベルで圧迫され、炎症を起して腫（はれ）ると、腰痛・下肢痛・痺れを生じます。変形した骨の圧迫で起こる変形性腰椎症、脱出した髄核の圧迫で起こる腰椎椎間板ヘルニア、狭くなった脊髄管の圧迫で起こる腰部脊髄管狭窄症（ようぶせきちゅうかんきょうさくしょう）が代表的疾患です。

神経根ブロックは造影剤を用いて針を刺す位置を確認しますが、方法には3つのタイプがあります。タイプ1は造影剤が神経根の中に認められるもの（針を神経の中に刺す）。タイプ2は、神経根に接し、造影剤が神経根の周囲に認められるもの。タイプ3は神経根に接していないものです。従来は、レントゲンをしながらブロック針を神経根に刺し、局所麻酔薬と炎症を鎮めるステロイドを注入する方法でタイプ1の方法です（平成19年5月26日号）。大変有効な方法ですが、欠点もあります。一番の欠点は、神経に針を刺すので非常に痛いこと、さらに神経に針を刺すことで神経損傷が生じる場合があること、またブロック前とは違った新たな痛みが起ることなどが挙げられます。

治療は安静、薬物療法で炎症を鎮めることが出来ます。

さらに神経根ブロックの効果を上げる方法として、神経根パルス療法があります。これは高周波熱凝固発生装置（ニューロサーモ）を用い、神経根ブロックに電気刺激（パルス療法）を加える方法。局所麻酔薬とステロイドの注入に加えて電気刺激を与えることで、痛みの減少と効果時間の延長が期待できます。

梶木病院(西花尻) www.comma.jp